

戦争をさせない
Anti-War Committee of 1000
1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.29

(2015年7月29日号)

〒101-0063 東京都千代田区
神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL: 03-3526-2920

FAX: 03-3526-2921

■「とめよう！戦争法案 集まろう！国会へ」 7.26 炎天下の国会包囲行動に 2 万 5 千人

戦争させない・9 条を壊すな！総がかり行動実行委員会は、7 月 26 日、翌日から参議院で審議入りする戦争法案に抗議するため、「とめよう！戦争法案 集まろう！国会へ 7.26 国会包囲行動」を開催しました。政府・与党は衆議院での強行採決の際、「3 連休を挟めば忘れるだろう」と発言しました。しかしこの日はその発言を跳ね返すかのように、2 万 5 千人もの市民らが結集し、猛暑にもかかわらず戦争法案の廃案を訴えました。集会には多くの国会議員や著名人も駆けつけ、アピールを行いました。



2 万 5 千人の参加者が国会周辺を包囲して戦争法案に抗議の声を上げた（国会正門前）

香山リカさん（精神科医） この暑い日に自分の意志でこれほどの人が集まるのはすごいことだ。安倍総理は中国の脅威が増していると言う。しかし日本の一番の脅威は安倍政権だ。安倍総理、今すぐ私たちに平和と誇りを返してくれ。今、各地の大学・高校では若い人も立ち上がっている。暑いけれど共に頑張っていこう。



山口二郎さん（法政大学教授） 先月、私は安倍政権を振り返りにしようと言った。あの時はまだ願望だったが、今や内閣支持率は 30% 台まで落ち、世論が大きくなっている。私たちは民主主義と平和を前の世代から受け継ぎ、次の世代に引き継ぐ責任がある。8 月、9 月、安倍首相にとっては茨の道だ。8 月は日本中が戦争の愚かさについて考え直す時期であり、原発の再稼働もある。まさに安倍政権を倒すための動きを一層大きくする必要のある時期だ。安倍政権を振り返りにしよう。

佐高信さん（評論家） 安倍首相がアメリカの議会で、英語で演説したことを私は許せない。アジア・アフリカ会議では日本語で話しているではないか。沖縄選出の照屋寛徳議員は質問主意書でこのことを突きつけた。占領下の沖縄で言葉を奪われた経験を持っている彼にとって、英語で演説するというのはアメリカに媚びることだ。

最近のニュースによれば、公明党が揺れていると言う。しかし本当に信じていいのか。公明党は「平和の党」ならば、今すぐ野党になれ。



鎌田慧さん（作家・ルポライター）

安倍さんは8月15日に戦後70年談話を発表するが、彼はアジアの人々に向けて語る言葉を持っていない。アジアの民衆とこれからどうしていくのか、その言葉がないから右往左往している。私たちは先の戦争で何と多くの被害をアジアに与えたことか。それに対する深甚なる反省と共に新たなアジアを作っていくことが、戦後70年を迎えるにあたって求められている。だから私たち民衆がアジアの人々と手を結んでいく。そのために安保法案に反対していく。とにかく私たちは原発も戦争も再稼働させない、その思いでこれからも頑張っていこう。

集会には、作家・コメンテーターの室井佑月さんも参加した



蓮舫議員（民主党） 「戦争法案絶対反対」今日はその思いで挨拶にきた。70年前の今日、一体どんな景色が広がっていたか。ポツダム宣言を聞かなかった政府により、どれほど多くの尊い命が失われたことか。それから先輩たちが信じられないほどの苦勞をして、私たちは空気のように平和を抱きしめている。この平和を守り続けてきたのが、まさに憲法9条ではないか。審議もしっかりしないで、テレビで例え話。こんな恥ずかしい総理はさっさと退陣に追い込みたい。いよいよ明日から参議院の審議が始まる。皆さんの後押しによって、内閣支持率が下がればこの法案は絶対に廃案にできる。



吉田忠智議員（社民党党首） 明日から参議院での審議が始まる。参議院は衆議院以上に戦争法案反対の議員が多い。安倍総理はまだまだ強気の姿勢を貫いているが、支持率は今や35%だ。岸信介が退陣した時の支持率は28%。あと少しだ。日本が70年間戦争をしなかったのは9条を守ろうと粘り強く闘ってきたからではないか。安倍政権を倒す闘いを最後まで頑張ろう。



山下芳生議員（共産党書記局長） 安倍総理は国民に追い込まれ、自らテレビで法案の説明をした。戦争を火事に例えたひどい説明だった。火事は火を消せば済むが、戦争は武力行使をすれば相手から反撃される。消火活動は感謝されるが、武力行使は殺し殺され、憎しみしか生まない。総理自ら法案を論理的に説明できないことを証明してしまった。日

本が今やるべきは戦争の準備ではなく、9条を活かした平和外交だ。皆さん、大義は私たちにある。共に闘っていこう。

福山洋子さん（日本弁護士連合会・憲法問題対策本部） 不安と恐怖を国民に与える政治家は、政治家として失格だ。前の戦争の時は女性の参政権がなかったが今はある。私たちを甘く見てはいけないことを思い知らせよう。日弁連としても今後も大きな集会などを予定しており、戦争法案を止めるため最後まで闘っていくつもりだ。



間宮陽介さん（青山学院大学特任教授） 私も含め、皆さんは止むに止まれぬ気持ちでここに集まっていると思う。この戦争法案は戦後最悪の悪法だ。これは憲法に沿っていないから、そもそも法とも言えない。憲法 98 条には「憲法が国の最高法規でありその条規に反するものは法律と認めない」と書いてある。法でさえないものを通すことはクーデターに等しいことだ。戦争は防衛を名目として始まる。安倍首相も先の戦争が侵略戦争だと認めたくないわけだ。彼は決める時には決めると言うが、決めてはいけないことを決めている。その意味で独裁者だ。彼らの布石がなくなるまで全力で闘おうではないか。

池谷薫さん（映画人九条の会・映画監督） 私は 10 年前に「蟻の兵隊」という映画を作った。軍の命令で中国に残留させられ、戦後も理不尽な活動が続けさせられた兵士たちの物語だ。戦後の日本政府は、兵士たちの軍籍を抹消するなどアリバイ工作を重ねた。兵士たちは国家に見捨てられたのだ。国家は大きな嘘をつく。それがこの映画の教訓だ。10 年後の今、また権力者の嘘が目に見える事態が生まれた。安倍首相、あなたは将来日本の若者が戦場に立たされたとき、最前線に立って指揮を執る覚悟があるのか。戦争法案に反対し、平和憲法を守っていこう。



青木初子さん（一坪反戦地主会・関東ブロック） 沖縄のキャンプ・シュワブの前で、素手で抗議行動を始めてから今日で 185 日になる。海上保安庁の手によって、抗議するボートが沈められるようなことが行われている。安倍政権は弾圧を伴って沖縄の民意を踏みにじっている。沖縄の地上戦によってどれほど沖縄の人の命が奪われたか、私たちは決して忘れない。辺野古基地建設反対、戦争法案反対、皆さんと連帯して闘っていきたい。

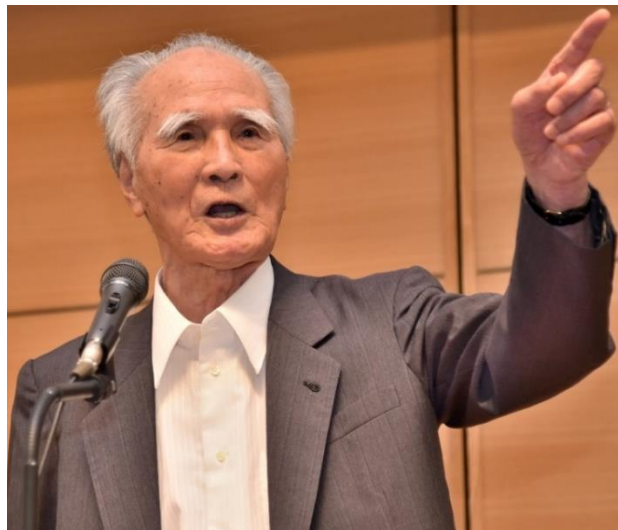
■「戦争法案」を葬ろう 7.23 集会

立憲フォーラムと戦争をさせない 1000 人委員会は 7 月 23 日、



村山富市元首相が「戦争法案は許せない」と力強く講演（憲政記念館）

『戦争法案』を葬ろう 7.23 集会」を憲政記念館講堂で開催しました。はじめに立憲フォーラム代表の近藤昭一議員（民主党）が挨拶し、「戦争法案を葬り、大日本帝国を生んだ亡霊を葬り、皆さんと一緒に未来に向かっていきたいと思う」と自らの思いを強く訴えました。また、江崎孝議員（民主党）は参議院での特別委員会の予定を報告し、参議院で必ず廃案にする決意を訴えました。その後、上智大学教授の中野晃一さんと、歴史学者で米・ジョージタウン大学教授のジョルダン・サンドさんが、慰安婦問題を中心とする歴史認識をテーマに講演を行いました。最後に、高齢にもかかわらず大分から足を運んで集会に参加した村山富市元首相（91）が講演し、戦争法案の廃案を強く訴えました。



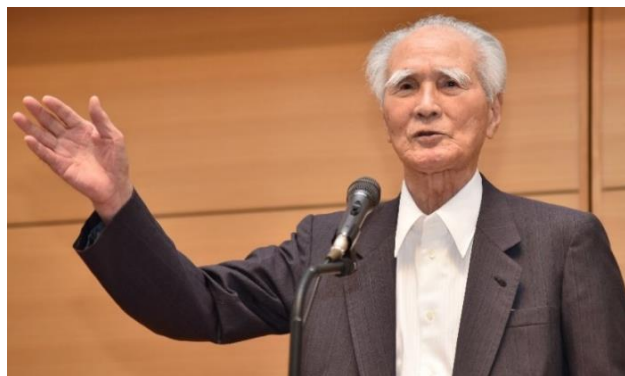
村山富市元首相 病院のベッドで寝たきりの93歳の方から、憲法改正反対、安保関連法案反対、私はじっとしてられないと書かれた手紙をもらった。戦争を経験した方は皆同じ思いだろう。私もそういう皆さんの手紙に励まされて、今日はどんなことがあってもここに来ようと思った。

この70年間、日本は平和憲法のもとで戦争をしなかった。朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争があった。しかしどんなことがあっても戦争に参加はできない、そうやって平和憲法を守ってきた。かろうじて日本の国は平和を維持してきた。私はポツダム宣言が受諾され平和憲法が作られた時、明るく晴れあがったよう

な気持ちになった。自由と人権と民主主義を貫いた憲法というものがどんなにありがたいものか。私も昔、二等兵として兵隊に入った。一等兵から「俺の命令は陛下の命令だ」と言われ自由も何もなかった。そして戦争に負けた。これが日本の姿だった。けれども憲法によって自由を得た。一総理大臣が自分の野望を達成するために、国民を犠牲にして憲法を改正する、こんなこと許されますか。今の若い人達は昔と違う。かつての安保闘争の時は全学連など色々な団体があった。しかし今はこれでいいのか、日本は大丈夫か、そういう不安にかられて居ても立っても居られなくて集まっている。

日本は安倍総理が守るのではない。日本国民が守るのだ。大多数の憲法学者もこれまでの内閣法制局長官も違憲だと言っている。私たちが議員の時は法制局長官の言うことは絶対だった。だから歴代の内閣も集団的自衛権は違憲だとみなしてきた。ところが安倍政権は外務省の職員を法制局長官に置いて、自分の意のままに法律解釈をできるようにした。権力を握れば何でもできると思っている。冗談ではない。権力を握っているのは国民だ。それを踏みにじって政治をするなんて許されない。かつては憲法改正の「か」の字を言うだけで内閣が崩れた。「日本国憲法はめかけの憲法だ」と言った文部大臣はその一言だけで首になった。ところが、今や国民の反対を押し切っても法案を通すと総理が公然と言っている。

戦争は本当に異常な状態だ。これから将来を担っていく20歳くらいの青年が特攻隊として飛び立っていく。帰りの燃料はない。自分の死が国を救えるのならまだ救いはあるかもしれない。しかしいつ日本が手を上げるかという状況で「死んでこい」などと言えるか。自分の子どもにと言えるか。こんなことが平気で行われるのが戦争だ。どんなことがあってもこれは許されない。国民の総がかりで防がなければならない。何としてもこの法案を潰す。これから厳しくなるが、体に気をつけて皆さんがんばろう。



「何としてもこの法案を潰す」と語る村山富市元首相

■7.23 戦争法案 反対 国会前連続 集会（第10回）

戦争させない・9条を壊すな！総がかり行動実行委員会
は、7月23日、第10回目となる
国会前連続集会を開きました。
約2000人の市民らが集まり、
国会に向けて戦争法案反対を
訴えるシュプレヒコールを上げ
ました。集会には村山



村山富市元首相が駆け付けて力強く発言した（衆院第二議員会館前）

富市元首相も駆け付け、「憲法を勝手に変えて戦争ができる国にする、そんなこと絶対に許すわけにはいかない」と安倍政権を糾弾しました。また、法政大学教授の山口二郎さんは、「こ



「戦争法案反対」の声を上げる参加者

この安保法案に対案なんていない。立憲主義と民主主義を破壊しようとしている政権に対しては、『違憲の法案を今すぐ撤回せよ』とだけ言えばよい。それこそが唯一の対案である」と訴えました。

国会議員の方々も参加し、民主党から近藤昭一衆議院議員、社民党から吉川元衆議院議員、共産党から井上哲士参議院議員がそれぞれ連帯の挨拶をしました。

10回目を迎えたこの木曜連続集会ですが、参議院での審議が続く8月・9月にも継続して行っていく予定です。

■「戦争法案」を葬ろう 7.16 集会

7月16日、戦争をさせない1000人委員会と立憲フォーラムは『戦争法案』を葬ろう 連続集会」を憲政記念館講堂で開催しました。冒頭で、辻元清美議員（民主党・衆院安保特別委員）が挨拶し、「これから審議は参議院に移るが、これまで前線で闘ってきた衆議院議員たちも一致して闘っていききたい」と決意を訴えました。その後、ジャーナリストの高野孟さんが、安倍政権の矛盾や今後の展望について講演しました。最後に、各界からのアピールが行われ、「安全保障法案に反対する学者の会」の西谷修さん（立教大学教授）などが連帯の挨拶をしました。

高野孟さん（ジャーナリスト） 今回の強行採決は安倍政権の強さの表れではない。むしろ弱さの表れであり、敗北の始まりであることをしっかり意識したいと思う。5月26日から審議が始まり、116時間を費やして、安倍さんは国民の理解を得ると言った。しかしそのことに失敗した結果がこれだ。間違いなく安倍政権の末期の始まりである。

安倍さんは邦人輸送中の米艦を防護する際の事例として、赤ちゃんを抱いたお母さんが米艦に乗って帰国する話をよくする。しかしこの事態はありえない。戦時中に民間人を軍艦で運ぶ



ゆとりがあるわけがない。仮にあったとしても、米海軍の軍艦の運用原則では救護してよい民間人には優先順位がつけられている。カナダ人、イギリス人などが優先され、日本はその他という扱いだ。

ホルムズ海峡の話も、当のイラン人はそんな話があるのかと驚いている。イランが仮にホルムズ海峡に機雷を撒いたとしたらオマーンとの交戦状態になる。そこへ日本が行って機雷を除去するとなれば、他国の領域で武力行使をしたことになり、イランとの交戦も覚悟しなければならない。専守防衛どころの話ではない。イランは数少ない日本の友好国、親日国である。国際情勢からも完全にずれてしまっている。

どうしてこんなことになるのか。ひとつには、安倍さんのおじいさんに対するコンプレックスがある。おじいさんの岸信介は、何十万人のデモ隊に囲まれても毅然としていた。そういう美学がある。もうひとつには、お仲間政治がある。マスコミつぶし発言で話題になった自民党勉強会のメンバー37人のうち32人が神道政治連盟国会議員懇談会という団体に入っており、その会長は安倍さんだ。その上位団体に日本会議があり、そこでも安倍さんは副会長をやっている。日本会議は広く政治運動を行う団体で、その幹部にあたる人たちが今の内閣の中心にいる。安倍内閣は日本会議内閣と言っても差支えない。このように友達だけで周りを固めているので、世論がどう盛り上がりそうと関係ないのだろう。

内閣支持率の低迷

内閣支持率は政局を読むためのひとつの指針になりうる。支持率が35%を切ると黄色信号が点く。30%を切ると赤が点滅しはじめ、25%を切ると赤信号となる。自民党は8月にもう一回参議院で強行採決しても30%をぎりぎり維持できると考えていたようだ。しかし6月5日の憲法学者の違憲発言で反対の声が大きくなった。なんだ、違憲のものを合憲と言っているからわからなかったのか、と霧が晴れた。参議院の60日ルールを適用したところで強行には変わらない。仮に廃案にならなくても支持率は30%を割る。岸信介も強行採決をし、そこからデモが膨れ上がった。私もその翌日からデモに参加した。それでとうとう33万人のデモが起きた。岸首相は死を覚悟し、自衛隊の出動を要請した。しかし防衛庁長官が二度にわたってそれを拒否した。その後安保条約は自然成立したが、岸内閣は総辞職。この時の支持率は28%であった。簡単に言えば、われわれもあと一息だということだ。廃案になれば上々だが、そうならなくても、安倍さんの政治生命は終わりになるだろう。

これからは、まず参議院の議論が重要になる。これまで出てきた論点をこちらがわかりやすく整理して突きつけていく。そして国民の理解をますます深め安倍内閣を追い詰める。それから違憲訴訟をやる。すでに小林節さんは準備しているという。これをいまだかつてなかった、何十万人という大原告団による大きな国民運動にする。その原告団に賛成する党に投票するよう呼びかけ、参議院選につなげる。来年の参議院でとにかく3分の2をとって改憲したいというのが安倍さんの狙いなので、それを打ち砕く。実際には違憲訴訟は少なくとも4年かかるので間に合わない。そのため、この運動を進めながら趣旨に賛成する候補者の選別をする。そうやって結びつけていく。憲法学者には学者生命をかけて原告団の先頭で闘ってほしい。弁護士さんや違憲だと言った元法制局長官、他の学者も含めたアカデミズム全体にも闘ってほしい。

安倍さんは8月には70年談話を発表しなければならない。これは中国・韓国だけでなく全世界的注目がある。また川内原発の再稼働の話もある。8月は国権対民権という闘いの正念場だ。皆さん、頑張っていきましょう。



「強行採決徹底糾弾」の声を上げる参加者（7月17日、国会前）

■7.18 「アベ政治を許さない！」に 5000 人



「アベ政治を許さない」の声を上げる参加者（7月17日、国会前）

では約 5000 人の市民が集まり、プラカードを一齐に掲げ、安倍政権を許さない強い決意を示しました。また、呼びかけ人である澤地さんが、「沖縄から北海道まで、このプラカードを掲げている人々がいる。今若い人たちも国会前に集まり声を上げている。10代から私のような80代までが同じ反対の思いで手をつないでいる。そうなった時に政治は本当に変わる」とアピールしました。他にも、鳥越さんをはじめ、作家の落合恵子さんや漫画家の石坂啓さんなどもアピールを行い、安倍政権に強く抗議しました。



プラカードを掲げる鳥越俊太郎さんと澤地久枝さんら
（7月18日、国会正門前）



全国各地で市民がプラカードを掲げた
（7月18日、新宿駅南口）

■7.21 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」は、7月21日夕方、都内で一斉街宣行動を行いました。

戦争をさせない1000人委員会は、品川駅と大井町駅で街宣を行い、街を行く市民や仕事帰りの会社員に戦争法案反対を呼びかけました。

品川駅前では、「戦争をさせない1000人委員会東京南部」のメンバーを中心に、駅利用者や市民にチラシやリーフレットを配布し、約1時間の街宣を行いました。



駅利用者らに「戦争法案反対」を呼びかけた
（7月21日、品川駅前）

■7.27 戦争法の廃案を要求する緊急行動



参議院での審議入りについて説明する社民党・吉田党首

福山真劫さんは、「国会を何十万の規模で囲み、自民公明の議員に国民の声を要請し続ける。そうした闘いをあきらめずに続ければ必ず安倍政権の暴走は止められる」と力強く訴えました。

また、韓国の反戦団体の方も参加し、「集団的自衛権や今回の戦争法案に反対する運動が韓国でも盛り上がっている。これは日本だけでなく朝鮮半島、そしてアジアの民衆全体の問題だ。アジア全体の平和のために一緒に闘っていきましょう」と連帯のアピールをしました。

7月27日、戦争法案が参議院で審議入りすることを受け、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、国会前で緊急の抗議集会を開きました。約400人の市民らが集まり、真昼の炎天下の中、抗議のシュプレヒコールを上げました。集会に駆けつけた吉田忠智議員（社民党党首）は、「審議は最初から大きな問題をはらんでいる。特別委員会の理事が自民・公明・民主・維新の4党だけになっていて、これでは少数会派の意見が運営に反映できない。これに対し、改善を強く求めていきたい」と特別委員会の問題点を指摘しました。戦争をさせない1000人委員会の



戦争法案反対の声を上げる参加者

■みなさんからのメッセージ

— 厳しい暑さの中での皆様のご活動心から感謝しています。7月15日の強行採決の映像を眼にした時の衝撃は今になってもまだ収まりません。私は生涯2015年7月15日を立憲民主国家である日本に歴史上最大の汚点を与えた、時の政権自民党の安倍総理と共に忘れる事はないでしょう。私も微力ながら、地元でこの法案を廃案に出来るように有志の人達と協力していきたいと思っています。（岐阜県・女性）

— 戦中、戦後の人間として強く思うことは国際関係がどうあるべきか、しっかりと考えていただきたいということ。同盟国としては平和外交を勧めるような協力をしてほしい。抑止以外の方法を練り上げるような政治力を見せてください。16日の安保法案採決の翌日、アメリカとオーストラリアと日本の（日本は戦後初の）自衛隊の合同演習を行ったとニュースで知り、唖然としました。安倍政権の真意が明らかになったような映像ニュースでした。この法案が廃案になることを信じて活動を応援させて頂きたいと思います。（兵庫県・女性）



抗議の声を上げる参加者（7月26日、国会前）

■集会・活動スケジュール

7月29日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせて頂くことがあります。行動の詳細は1000人委員会ホームページ、または「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」のウェブサイト <http://sogakari.com/> をご覧頂るか、事務局までお問い合わせください。

7月 30日(木) 17時00分～ 「戦争法案」を葬ろう 7.30 院内集会
場所：参議院議員会館1階 講堂／講師：保阪正康さん(作家)
主催：戦争をさせない1000人委員会・立憲フォーラム

7月 30日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第11回)
場所：衆議院第2議員会館前

8月 4日(火) 18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動

8月 6日(木) 18時30分～19時30分 戦争法案反対国会前集会(連続行動第12回)
場所：衆議院第2議員会館前

8月 11日(火) 18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動

8月 13日(木) 18時30分～19時30分 戦争法案反対国会前集会(連続行動第13回)
場所：衆議院第2議員会館前

8月 18日(火) 18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動

8月 20日(木) 18時30分～19時30分 戦争法案反対国会前集会(連続行動第14回)
場所：衆議院第2議員会館前

8月 25日(火) 18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動

8月 27日(木) 18時30分～19時30分 戦争法案反対国会前集会(連続行動第15回)
場所：衆議院第2議員会館前

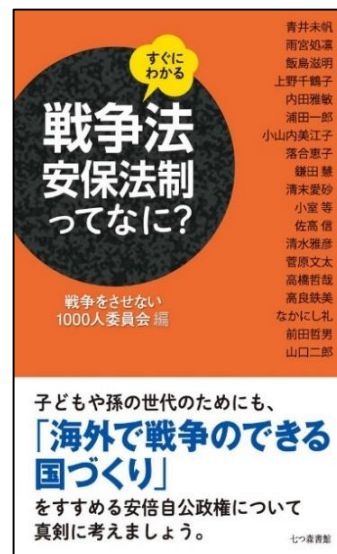
8月 30日(日) 14時00分～15時30分 8.30 国会包囲10万人行動
場所：国会議事堂周辺

※以降の予定は、ホームページ等で随時アップします。

「すぐにわかる 戦争法＝安保法制ってなに？」

戦争をさせない1000人委員会の呼びかけ人のみなさんが中心となって作られた書籍『すぐにわかる 戦争法＝安保法制ってなに？』が7月18日、七つ森書館から発売されました。国会論戦がつづく「戦争法案」の分かりやすい解説と、それに反対する著名人の声を一冊にまとめました。全国の書店でお求めになれます。店頭がない場合は、書店でご注文ください。

「すぐにわかる 戦争法＝安保法制ってなに？」七つ森書館
(戦争をさせない1000人委員会編、新書判、240ページ、定価1200円＋税)



「戦争をさせない全国署名2015」第3次締め切り：8月31日

新たに呼びかけている「戦争をさせない全国署名2015」第3次集約の締め切りは8月31日(月)です。第3次集約分は9月中に提出予定です。たくさんの署名をお待ちしております。